

# Sense of Coherence と自尊心の影響関係についての調査

## —質問紙調査協力をお願い—

### 本調査の目的

- ・抑うつと主観的幸福感に対して、Sense of Coherence (SOC) と自尊心が持つ影響関係を把握する。
- ・SOC と自尊心の前後関係を検討する。
- ・主観的幸福感に対して楽観性が持つ影響は、SOC によって併呑されるのかを検討する。

### 首尾一貫感覚 (sense of coherence : SOC) について (Antonovsky, 1987 山崎・吉井監訳, 2001)

- ・A. Antonovsky (1987) で提唱された「ストレス対処能力」とされ、身体的・精神的健康を予測する概念である (山崎, 2008)。SOC は、「その人に浸みわたった、ダイナミックではあるが持続する確信の感覚によって表現される世界 (生活世界) 規模の志向性」と定義され、「把握可能感」・「処理可能感」・「有意味感」の3つからなり、「把握可能感」は「自分の内外で生じる環境刺激は、秩序づけられた、予測と説明が可能なものであるという確信」、「処理可能感」は「その刺激がもたらす要求に対応するための資源はいつでも得られるという確信」、「有意味感」は「そうした要求は挑戦であり、心身を投入しかかかわるに値するという確信」と定義される。
- ・SOC は、「一貫性があり、結果への形成の参加ができて、過小負荷と過大負荷のバランスが取れている」と感じられる人生経験によって SOC は形成、強化される。

### SOC 向上に向けた教育的介入の重要性と概念理解の深化に向けた研究の必要性

- ・SOC は身体的・精神的健康を予測する概念である。SOC は、抑うつや幸福感の予測力は特性的自己効力感・基本的信頼感よりも高いことが確認されている (Isowa, 2016)。同様に、SOC は楽観性よりも抑うつへの予測力が高く、楽観性による抑うつへの影響は SOC に併呑されることも明らかとなっている (磯和・三宮, 2018) ことから、SOC を促進する働きかけの研究は重要性が高いと考えられる。抑うつの抑制、幸福感の増進は万人にとって重要性が高いものと考えられるため、学校教育に取り入れる意義があると考ええる。
- ・本調査では、抑うつや幸福感に予測力を持つ概念かつ、本邦においてもよく知られている「自尊心」を取り上げ、SOC との関係性を把握する。また、4 時点の追跡調査を行い、SOC と自尊心の前後関係を把握することを目的とする。
- ・加えて、磯和・三宮 (2018) で、SOC は楽観性よりも抑うつに対する予測力が高いことが示されたが、幸福感との関係は明らかではない。そのため、本調査では主観的幸福感と楽観性との関係が SOC によって説明されるかを確認する。

### 調査尺度の構成 (別添の調査票を参照)

1. 人生に対する志向性尺度 (SOC-29, Antonovsky, 1987 山崎・吉井監訳, 2001) ……29 項目 7 件法
2. 自尊感情尺度 (桜井, 2000) ……10 項目 4 件法
3. 改訂版楽観性尺度の邦訳版 (坂本・田中, 2002) ……6 項目 5 件法
4. 邦訳版 CES-D 尺度 (島他, 1985) ……20 項目 4 件法
5. 日本版主観的幸福感尺度 (曾我部・本村, 2010) ……4 項目 7 件法
6. 自由記述欄 (任意回答)
7. 追跡調査への依頼 (任意回答)

計 69 項目 調査所要時間約 15 分

### 追跡調査 (Web 調査)

1. 人生に対する志向性尺度 (SOC-29, Antonovsky, 1987 山崎・吉井監訳, 2001) ……29 項目 7 件法
2. 自尊感情尺度 (桜井, 2000) ……10 項目 4 件法

計 39 項目 調査所要時間約 10 分 × 30 日のスパンで 3 回

※Web 調査はメールで直接配信し、学生のプライベートな時間に回答してもらいますが、授業内でのリマインドをお願いできれば幸いです。

### 本調査の仮説

- ・ SOC は、抑うつと主観的幸福感に対し、自尊心を統制しても影響力を有するだろう。  
(検討方法 ; 重回帰分析)
- ・ SOC と自尊感情の前後関係については、自尊心から SOC への縦断パスよりも SOC から自尊心への縦断パスが強く、自尊心から SOC への影響よりも、SOC から自尊心への影響の方が大きいだろう。  
(検討方法 : 交差遅延効果モデル・潜在成長曲線モデル)
- ・ SOC は、楽観性が主観的幸福感に対して持つ説明力を併呑するだろう。  
(検討方法 : 重回帰分析)

== 【引用・参考文献】 =====

Antonovsky, A., 山崎喜比古, & 吉井清子. (2001). 健康の謎を解くー ストレス対処と健康保持のメカニズム 有信堂高文社

Isowa, S. (2016). Effect of the Sense of coherence is for depression and subjective-happiness-feeling, what is mediated by generalized self-efficacy and sense of basic trust. 31st International Congress of Psychology 磯和 壮太郎・三宮 真智子 (2018). Sense of Coherence と多面的楽観性の関係 日本健康心理学会第 31 回大会発表論文集, 28.

坂本真士・田中江里子. (2002). 改訂版楽観性尺度 (the revised Life Orientation Test) の日本語版の検討. 健康心理学研究, 15(1), 59-63.

桜井茂男 (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, 12, 65-71.

島悟・鹿野達男・北村俊則・浅井昌弘 (1985). 新しい抑うつ性自己評価尺度について. 精神医学, 27(6), 717-723.

曾我部佳奈・本村めぐみ (2010). 青年期における大学生の主観的幸福感--その影響要因の探索に向けて-- 和歌山大学教育学部紀要. 教育科学, 60, 81-87